

子どもの本や、子どもの読書活動の県内外の情報をお届けします！
山梨県立図書館 TEL 055-255-1040 <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

～ 県内のニュースから ～

かつめま朝市でのおはなし会「朝おは」開催

6月3日(日)、かつめま朝市にて、おはなし会「朝おは」が開催されました。朝市でのおはなし会なので「朝おは」。きっかけは、朝市の主催者の方に声をかけていただいたことだそうです。

指定されたブース内に、遠目でもわかるように装飾されたテント。そこを会場に、手遊び、ペープサート、大型絵本の読み聞かせ、紙芝居、わらべうたなどのおはなし会が行われました。お父さん、お母さんと一緒に参加していた子どもが多かったのですが、子どもたちはもちろん、親御さんも楽しんでくれているようです。おはなし会をしていないときは、自由に本を読んでもらえるようにと、子ども用・大人用それぞれ50冊の本を、勝沼らしく“ワインの箱”に入れて展示していました。

このおはなし会に参加した方が、今度は図書館でのおはなし会に参加したり、今まで図書館を利用したことがなかった方が「今度行ってみます」と言ってくれたり。また、大人向けに展示していた本を見た方が、「この前の本を…」と図書館に借りに行ったりと、いろいろな方が集まる場所に参加したことで、参加者が楽しむだけでなく、図書館のPRとしても大変効果的なおはなし会だったようです。



次回は9月2日(日)に開催される予定です。おはなし会は午前10時30分からですが、かつめま朝市は午前9時から12時まで行われています。おはなし会の前後の時間は、展示された本の読書スペースとして開放されます。新しいタイプのこのおはなし会、今後の活動に注目です。

●●● 活動紹介 ●●●

南アルプス市立甲西図書館 外国語のおはなし会

日本語と外国語を組み合わせたおはなし会。南アルプス市立甲西図書館で行われている、外国語のおはなし会をご紹介します。

●● 概要 ●●

このおはなし会は、図書館と同じ敷地内にある国際交流協会と合同で開催しています。甲西図書館は市内の図書館の中で児童書に力を入れていること、また、国際交流協会からは、図書館のイベントなどでALTに参加していただいていたことなどから、合同のイベントとして、2007年に始まりました。小さい頃から様々な言語に触れることにより、異文化への興味を持つことができるということから、「学ぶ」というより「楽しむ」ということに主眼をおいています。

●● 内容 ●●

日本人、外国人を問わず、幼児から小学校低学年の児童が主な対象です。日本語だけでなく、英語・他の言語の絵本の読み聞かせ、手あそび、絵本の内容や外国の行

事を取り入れた工作などが毎回の流れとなっています。ことばや音を楽しむような絵本は、そのことばごと、おはなしを楽しむような絵本は、日本語の絵本で読んだ後に外国語で読むなど、その本によって変えています。

●● 5月に行われたおはなし会は… ●●

2012年5月26日(土)に行われたおはなし会の言語は、英語と韓国語。同じ絵本が英語、韓国語、日本語で書かれているものを読み聞かせをしたり、韓国語を書いたり、英語の手あそびやバルーンアートをしたりしました。幼児とその保護者の参加が多く、お父さんの姿も見られました。みなさん楽しんでいました。

ALTやボランティアの方々の協力により、年に2回開催しており、過去には中国語やスペイン語、ポルトガル語などのおはなし会も行われました。日本の遊びをテーマにする、折り紙をするなど、日本の文化も取り入れています。次回は2013年2月の予定となっています。特色のあるこのおはなし会にぜひ参加してみませんか？

南アルプス市立甲西図書館
〒400-0403 山梨県南アルプス市鮎沢 1212
TEL 055-282-7291

★じいじ・ばあばの読み聞かせ 近藤 幸枝 さん インタビュー



何かと話題になっている「孫育て」。絵本を読むことで、お孫さんと関わってみたら…？

図書館ボランティア「ききみみずきんおはなしの会」の初代代表であり、病院ボランティアとして読み聞かせもされている近藤幸枝さん。読み聞かせの講師としての経験もお持ちの彼女に、お孫さんへの読み聞かせについて、お話を伺いました。

—お孫さんへの読み聞かせについてどう思いますか。

お父さんやお母さんの読み聞かせもいいですが、ぜひ、おじいちゃん、おばあちゃんの声で読んであげてほしいです。また、お孫さんが小さいうちから、ぜひ絵本を通じたコミュニケーションを大事にしてほしいと思います。

—お孫さんと絵本を楽しむ講座の講師をされたことがあると伺いました。具体的にはどのような内容だったのでしょうか。

絵本の持ち方やページのめくり方、読み方の工夫やコツ、読み聞かせの実演などを行いました。また、参加者に好きな絵本を選んで読んでもらい、どんな工夫をしたのかを聞いてアドバイスをしました。他には、読み継がれてきた絵本、おじいちゃんやおばあちゃんが出てくる絵本などの紹介、また、わらべうたの紹介などもしました。

—これからお孫さんへの読み聞かせを始めようという方へのアドバイスとして、ポイントや注意点などがあれば教えてください。

- ・定番と呼ばれる、読み継がれてきた絵本を手取る。
- ・読み継がれている昔話、特に日本の昔話を読んであげる。昔話にはおじいさん、おばあさんが出てくる話が多い。また、繰り返しも多いので、子どもが内容を理解しやすく、「3回目はどうなるかな？」などと考えて楽しい。
- ・ご自分のお孫さんが興味を持っているような内容の本を選ぶ。すると、お孫さんはそのことについてもっと知りたくなってくる。
- ・すぐに手に取れるところに本を置いて、お孫さんが自然の流れの中で本を手にする、本と出会えるようなきっかけを作ってあげる。

—お孫さんへの読み聞かせにおすすめの本があれば、具体的に教えてください。

まずは、定番、刷りを重ねているもの。次におじいちゃんやおばあちゃんが出てくるようなものなどを読んであげてください。具体的には…

*おじいちゃんやおばあちゃんが出てくる絵本

『だいじょうぶだいじょうぶ』

(いとうひろし/作・絵 講談社 1995年)

『ばばあちゃんの絵本』シリーズ

今の季節なら『すいかのたね』

(さとうきこ/さく・え 福音館書店 1987年) など

*お孫さんと一緒に楽しむ絵本・遊ぶ絵本

『とこちゃんはどこ』

(松岡享子/文 加古里子/絵 福音館書店 1970年)

『ねえ、どれかい?』(ジョン・バーニンガム/さく まつかわまゆみ/やく 評論社 1983年)

『これはのみのびこ』

(谷川俊太郎/作 和田誠/絵 サンリード 1979年)



『なぞなぞのたび』(石津ひろ/なぞなぞ 荒井良二/絵 フレーベル館 1998年)

『やさいのせなか』

(きうちかつ/さく・え 福音館書店 2005年)

『ウラバン・オコサ かずあそび』

(谷川晃一/作 童心社 1999年)

など

※他に、『絵本で楽しむ孫育て おじいちゃんの出番!』(草谷桂子/著 大月書店 2006年)という本もご紹介いただきました。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

—近藤さんご自身にもお孫さんがいらっしゃる伺いました。絵本を通じたお孫さんとの関わり方や、感じたこと、お孫さんとのエピソードなどがあれば教えてください。

孫は6人います。一緒に住んでいないので、直接読み聞かせをする機会は、小さい孫が家に来た時ぐらいです。でも、いつでも手に取れ、すぐに取り出せるところに本が置いてあるので、孫から「読んで」と言われた時に読みます。あとは、初孫が2歳になった時から、その後は他の孫にも、子どもの本の専門店を通して絵本をプレゼントしています。毎月1冊、その子に合ったものを選んで送ってくれるものです。

それから、こんな出来事がありました。孫が小さい頃、家に遊びに来た時に、本棚からオレンジ色の背表紙の本を見つけ、「あっ、これ僕の本。読んで!」と言って取り出しました。『しろくまちゃんのほっとけーき』⁽¹⁾だったか「こぐまちゃんえほん」シリーズの中の1冊だったと思いますが、いつも家で読んでもらっているのだとわかり、とてもうれしかったです。また、現在小学校5年生の孫が2年生だった頃、「夏休みの読書感想文は何の本で書くの?」と聞いてみたら、すぐに「僕、エルマー!」⁽²⁾と答えました。これもとてもうれしい出来事でした。孫の家では寝るところ、テレビの横などに本が置いてあり、すぐに取り出せ、すぐに読んでもらえるようになっています。これらを、いつもお父さんお母さんに読んでもらっているようです。先程も話しましたが、おばあちゃんとしてできる孫へのプレゼントとして、本を配本してもらっていますが、選ばれた良い本がすぐに手に取れるところにあり、いつも親に読んでもらっているということが、この2つの出来事から感じられました。自分が今までしてきたことの顕れのように、とてもうれしく思いました。

—ありがとうございました。

近藤さんのお話から、読み聞かせについての熱意はもちろん、子どもや子どもの本がとてもお好きな様子が窺えました。素敵な声の持ち主でもある近藤さん。今度、近藤さんの読み聞かせを聞きに行ってみたいなあと思いました。

みなさんぜひ、お気軽にお孫さんへの絵本の読み聞かせを楽しんでみてはいかがでしょうか。

(1)『しろくまちゃんのほっとけーき』わかやまけん/え こぐま社 1972年

(2)『エルマーのぼうけん』ルース・スタイルス・ガネット/さく わたなべしげお/やく ルース・クリスマン・ガネット/絵 福音館書店 1963年